

## 埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 第2回意見交換会

### グループワークの発表の概要

#### グループ1

- 発表者：草加市
- 参加者：埼玉県社協、草加市、志木市精神保健福祉をすすめる会、戸田市
- 議論テーマ：③現状策で支援が届いていない人に対してどのようなアプローチが考えられるか、⑥行政・NPO・企業等の役割分担及び連携の方法は、④高齢者と他世代との交流を促進するための仕組みは

#### 発表内容

- ホームページやSNSでの周知が届いていない人々に対するアプローチとして、紙媒体の広報周知、社協だより、郵便局の方を活用した地域の見守り活動など、アウトリーチ的な視点が必要である。
- 行政・NPO・企業等の役割分担及び連携の方法として、郵便局の利用や、スターバックスとコラボしてスーパーを活用したイベントを行うことで個別支援のケースを発掘した自治体の話が出た。
- 不動産会社との連携による地域の見守り活動や、美容室の美容師さんとの連携によって生活環境の変化があった方を包括支援センターに繋げた事例が紹介された。
- 高齢者と他世代との交流を促進するための仕組みとして、地域特性等のデータ分析をしながら、小さなまちづくりの視点でアプローチをしていく必要がある。地域コミュニティの活性化、イベントを通じたアウトリーチ、福祉分野とまちづくり分野の連携が必要との意見が出された。

#### 講評

- 福祉分野とまちづくり分野の連携が必要ということで、アウトリーチも含めてお話をしていただきました。

## グループ2

- 発表者：越谷市
- 参加者：越谷市、行田市、草加市社協
- 議論テーマ：③現状策で支援が届いていない人に対してどのようなアプローチが考えられるか、⑤高齢者支援の担い手をどのように確保すればよいか、①高齢者の社会参加の状況について（就労、ボランティア等）

### 発表内容

- 現状策で支援が届いていない人に対するアプローチとして、行田市で行われている「支え合いのマップづくり」が紹介された。これは地域住民同士で気になる人を話し合い、見守り支え合いを行うものである。
- 高齢者支援の担い手確保については、自治会や民生委員などの高齢化や担い手不足が問題となっている。その原因として、役職が重なり負担が増えていくことが挙げられた。その解決策として、負担軽減ややりがいを見つけることが必要とされた。
- 高齢者の社会参加については、企業と連携して教育を行い、市民をボランティアに誘導するなどの取り組みが紹介された。
- 社会参加にインセンティブがあれば、参加できる。越谷市ではスマホのアプリを使って社会参加を促し、ボランティア活動に対してポイントやお金を提供する試みが行われている。

### 講評

- インセンティブになるものを提供し、やりがいについて検討いただいた。

### グループ3

- 発表者：埼玉りそな銀行
- 参加者：埼玉県雇用労働課、狭山市、コンパスナビ
- 議論テーマ：⑥行政・NPO・企業等の役割分担及び連携の方法は、⑤高齢者支援の担い手をどのように確保すればよいか、④高齢者と他世代との交流を促進するための仕組みは、②孤立した高齢者をどのように把握すればよいか

#### 発表内容

- 行政・NPO・企業等の役割分担については、行政が地域の意見を集約し、施策に反映することが主な役割であるとされた。また、企業は行政の横の連携を助ける役割があるとされた。NPOは地域包括ケアのネットワークを形成し、地域課題を深掘りする役割があるとされた。三つが三位一体で取り組むことが重要である。
- 高齢者支援の担い手確保については、大学生が知事に対して施策提言したり、看護学校が高齢者支援や認知症の予防に取り組んだり、元気な高齢者が他の高齢者を支援したりするなど、様々な形がある。学習支援についても、シニアからシニアへの学習支援があってもよい。
- 居場所が大切であり、子供から高齢者までが交流を促進する場所が必要である。例えば、吉川団地の地域食堂は独居老人と子供たちの交流の場となっている。また、みな風地域食堂では高齢者が50人程度参加して、子どもとの世代間交流を行っている。
- 孤独・孤立を予防するためには、40代から50代の働き方改革を通じて、仕事だけでなく趣味やネットワークを形成することで、高齢者になっても孤立しないようにすることが重要である。
- 孤立した高齢者をどのように把握すればよいかについては、ヤマトの見守りサービスや地域コミュニティの拡大などが提案された。孤独・孤立の方を気にかけているというメッセージを発信することが、結果として孤立した高齢者の把握に繋がるのではないかという結論となった。

## 講評

- 居場所の重要性や、役割分担の議論をしていただいた。また、最後に「発信」ということをご指摘いただいた。

## グループ4

- 発表者：戸田市
- 参加者：埼玉県民広聴課、川口市社協、ムーミンの会
- 議論テーマ：①高齢者の社会参加の状況について（就労、ボランティア等）、②孤立した高齢者をどのように把握すればよいか、③現状策で支援が届いていない人に対してどのようなアプローチが考えられるか

### 発表内容

- 高齢者の社会参加の状況については、おとな食堂、ラジオ体操、シルバー人材センター、土いじり、自治会などが参加している活動が紹介された。また、参加を促すためのインセンティブとして、シルバー人材センターでのお金、ラジオ体操でのスタンプカード、おしゃべりそのものが挙げられた。
- 現状策で支援が届いていない人に対するアプローチとして、オプトアウトの見守りという取り組みがある。民生委員さんに高齢者のお宅を回ってもらう、地域福祉推進員を設置し、ローラー作戦として全ての高齢者のお宅を回ってもらう。家庭訪問の際には何かちょっとしたものを持っていく。
- お友達が連れ出す、活動中にムーミン広場を設けてひきこもりの方の集いの場に一緒に来てもらう、地域づくり支援ボランティアを作るなどの方法がある。
- 課題としては、50歳80歳という年齢になると活動の場に参加するのが難しくなる。また、見守りの対象世帯も単身高齢世帯や老々世帯が対象であり、50歳前後の子どもがいる世帯が対象外となるといった課題がある。活動に参加した方が負担を感じないようにすることが重要。
- 引きこもりサロンの運営をはじめ、引きこもり世帯への支援活動は、特定の職員に頼る方式では精神的負担が大きく、長続きしないおそれがあるので、担い手を多く確保するために、社会福祉協議会との協働や、ボランティアへの参加呼びかけなども必要なのではないかと。

## 講評

- 居場所の話、オプアウトの話まで踏み込んで議論していただいた。

## グループ5

- 発表者：狭山市社協
- 参加者：秩父市、狭山市社協、鴻巣市、埼玉県保健体育課、埼玉県疾病対策課
- 議論テーマ：①高齢者の社会参加の状況について（就労、ボランティア等）、③現状策で支援が届いていない人に対してどのようなアプローチが考えられるか

### 発表内容

- 支援が届いていない人に対しては、民生委員の力を借りる、学校の教室を解放して地域の方への講座を開く、老人ホームの力を借りるといったアイデアが出た。
- 高齢者が目にするメディアを使用する。
- 医療機関において、医師からの情報提供や周知が効果的ではないかという意見があった。
- 鴻巣市では重層的支援体制整備として市役所に相談窓口を設置した際に、警察や消防にも周知をしたところ、相談件数が伸びたという報告があった。
- 居場所は小学校区など、なるべく小さい区域に作ることを望ましい。
- 高齢者の社会参加として、ひきこもりの方をどのように社会につないでいくかという議論がなされた。病院では精神疾患を治すところではあるが、就労支援を行う団体等の周知を行っていただくといった提案がなされた。
- 市町村によって環境や状況が違うため、一つの市町村だけでなく、広域で交流することができる協議会のようなものを作ると国からの予算も通りやすいのではないかという意見が出た。

### 講評

- 医療機関との接点や、重層的支援体制整備事業、居場所づくりという話をしていただいた。広域の視点という新たな視点での議論も発表いただいた。
-

(グループ6はなし)

## グループ7

- 発表者：埼玉県住宅課
- 参加者：狭山市、富士見市、鳩山町、北本市、志木市、埼玉県住宅課
- 議論テーマ：②孤立した高齢者をどのように把握すればよいか、①高齢者の社会参加の状況について（就労、ボランティア等）

### 発表内容

- 孤立した高齢者をどのように把握すればよいかについては、狭山市からの提案として、自分たちの存在を知ってもらうために名刺配りやチラシ配りを積極的に行うことが提案された。
- また、鳩山町からの提案として、重層的支援体制整備事業の関係の庁内の連携会議において意見交換を行っているとの報告があった。
- 高齢者の社会参加の状況については、富士見市からの提案として、高齢者向けサロンを全世代向けのサロンとした場合に、補助金の上乗せなどがあるとの報告があった。
- 志木市からは、多世代交流の市民サロンはあるが、福祉分野は高齢者、子育て、生活困窮等、分野が分かれているため、横の交流が難しいという話があった。
- 北本市からは福祉まつりなどで様々な支援団体が活動内容について説明する場面があるとの報告があった。

### 講評

- 社会参加や重層的支援体制整備の話に加えて、福祉の視点における多世代交流の難しさを指摘していただいた。

## 全体講評（発表内容のキーワードごとのまとめ）

- **地域づくり・まちづくり**:福祉の視点から議論することは重要ですが、それを超えた議論も必要であるとの指摘がありました。具体的には、地域づくりやまちづくりの視点からの議論が重要であるとの意見がありました。
- **インセンティブ**:活動が進むためのインセンティブが何かという点についての議論がありました。具体的には、シルバー人材センターでのお金や、ラジオ体操でのスタンプカード、おしゃべりそのものなどがインセンティブとして挙げられました。
- **連携・役割分担**:企業や行政、NPO などそれぞれの役割分担と連携についての議論が積極的に行われました。それぞれの得意分野を活かした連携が重要であるとの意見がありました。
- **居場所**:高齢者の社会参加や孤立した高齢者の把握について、居場所の確保が重要なキーワードとなりました。具体的には、どのように居場所を作るか、それが参加につながるとともに、高齢者を把握する手段にもなるとの意見がありました。居場所を他世代で作ることが重要であるという指摘もありました。
- **発信**:情報をどのように伝えるかという点についての議論がありました。具体的には、高齢者が目にするようなメディアを使うことや、医療機関での情報提供などが提案されました。